

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前，メールアドレス，添付資料を除き，HP等で公表  
します。また，ユネスコスクールの質の確保の観点から，報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの，報告書が未提出の場合には，ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので，あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼西高等学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )  
 住所 〒988-0044  
宮城県気仙沼市赤岩牧沢155-1  
 E-mail : chief@knisi-h.myswan.ne.jp  
 Website : http://www.knisi-h.myswan.ne.jp  
 児童生徒数：男子 91名 女子 265名 合計 356名  
 児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（福祉）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

## 1 ESDでめざすもの

### (1) ESDのねらい

理科行事（天体観測）や福祉施設での交流活動などの実践をとおして、自然環境や福祉について学ぶ。

### (2) ESDで育てたい力

東日本大震災により地震や津波の被害を受けて自然災害の怖さが強調されているが、本来気仙沼は自然と人間が上手に付き合っ共共存し、発展してきた町である。改めて自然を見つめてその成り立ちや偉大さを科学的にとらえることができる視点をもった生徒を育みたい。また、本校の福祉に関するカリキュラムやキャリア教育の成果を生かし地域社会との交流をとおして、協調性や共生など、人としての基本的な生きる力を育みたい。

## 2 ESDのプログラム

### (1) 取り組みの概要

#### I 環境教育

理科教育の一環として、天体についての興味関心を高め、主体的に学習する姿勢や、豊かな心を育む。また、気仙沼は光害が少なく、天体観測を行う絶好の観測地点である。天体観測を通して、気仙沼の特色や風土理解を深め、持続可能な発展のための教育（ESD）の一助とし、ユネスコスクール加盟校としての教育の開発や発展を目指すものとする。

#### II 福祉教育

児童福祉施設・障がい者施設・支援学校等での見学・交流を通し、親睦を図り互いの信頼関係を築く。そして現状を知ることにより、福祉の意義や課題について理解する。また、さまざまなボランティア活動に取り組みさせることにより、福祉に対する認識を深め、協調性や、共生などの意識を高める。

### (2) ESDプログラム（計画）

#### I 環境教育 「天体観測（スペースウォッチング）の実施」

1 1月 本校3年生のみを対象に参加希望を集約

1 2月 本校を会場に天体の説明・解説および観測を実施する

※今年度は1 2月実施の当初の計画を担当者の動態の都合により1月に変更することになった。

#### II 福祉教育

##### 1) 交流会等の実施（福祉類型）

- ・ デイサービスセンターとの交流会（本校会場）
- ・ 気仙沼支援学校との交流会（6回程度）
- ・ 知的障がい者授産施設見学

##### 2) ボランティア活動（社会福祉部ほか）

- ・ 児童・障がい者・高齢者施設でのボランティア活動
- ・ 各施設の行事等でのレクリエーションの企画・実施
- ・ 各施設との年間を通しての交流



支援学校交流会



デイサービスの交流会の様子

### (3) 活動の評価の観点と方法

I 環境教育・・・各種広報誌での発表報告

II 福祉教育・・・レポートの提出，学修単位の認定

### 3 平成25年度のESDの実践

#### (1) 東日本大震災後の取り組みの変更や改善点

理科巡検を実施してきたこれまでの実施内容から変更して，平成24年度に実践したプログラム

タイトル：天体観測をとおして気仙沼の自然を考える

～スペースウォッチングを通じて地域を理解する～

日時 平成26年1月15日（水）

会場 宮城県気仙沼西高等学校（化学室，屋上天体ドーム）

対象 本校3学年の希望者

内容 1) スライド上映，星空解説

①冬の星座（スライド上映）

②本日の星空解説（スライド上映）

③観測天体についての説明（惑星，衛星，星雲等の解説）

2) 天体観測（屋上天体ドーム）



本校天体ドームで天体を観測している様子  
している様子



理科室で天体の解説をし

#### (2) 実践の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

昨年度，スペースウォッチングは地域住民や保護者にも呼びかけ実施したが，今年度は日時等諸般の事情にから在校生に限った取り組みに変更した。

②児童生徒の変容（資質・能力・態度）の視点から

震災前、ESDの実践として理科巡検を実施し、体験型学習の機会としてきた。また、団体活動や校外活動を訓練する機会でもあった。しかし、震災後は理科巡検を中止したが、自然に触れる機会をできる限り確保し、自然災害の怖さを感じた生徒がどのように成長するのかを観察して行きたいと思う。

③教師や保護者、地域住民の意識の変容の視点から

校内では、本校教育活動の柱の1つとしてとらえており、今後も継続・発展の方向で意識統一がなされている。しかしながら地域と関わる事業形態は変更されたため、評価は定まらない。また本校生の福祉関連の本校生の取り組みは各種表彰を受けるなど高く評価されている。このことから、自然環境・福祉の両観点から地域に貢献し、大いに発展させていきたい。

（3）次年度に向けた課題

震災以降に変更を余儀なくされた活動や行事が多く存在する状況である。現状維持が継続している。本校の理科教育における取り組みも例外ではない。また、平成26年度の行事計画を調整中だが、高校入試制度の変更や新規事業の取り組みなどを考慮すると、ユネスコ関連の事業も復活させることに時期尚早の感は否めない。今後も、震災以前のESDの実施の可能性を探り、実施の可否を検討していく必要がある。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)